

会 報

兵小長

第 166 号

令和7年2月28日
兵 庫 県
小 学 校 長 会

「変化の時代に求められる教育の姿と校長の役割」

兵庫県小学校長会長 横 谷 義 秀

現在、SNSの普及により情報があふれ、その影響力は非常に大きなものとなっています。また、さまざまな角度や立場からの情報が流れ込む中で、何が事実であるのか判断することが非常に難しくなっています。さらに、生成AI（人工知能）の技術向上が爆発的なスピードで進む中、人間社会をAIに支配されるという映画「ターミネーター」のような世界が現実になるのではという懸念すら抱かれる状況です。

今年度、兵庫県小学校長会では、活動方針として「生きる喜びと夢をもち在りたい未来をとともに創る子どもの育成」を掲げて取り組んでまいりました。生成AIがどれほど便利で有効なものであっても、最終的な判断を行うのは人間です。そのため、自分の頭で考え、判断し、行動する力がこれまで以上に求められることは明らかです。そして、在りたい未来を創りあげていくのは、他ならぬ子どもたちです。

学校教育において、これまで以上に子どもたちが自己選択・自己決定する機会を授業や学校生活の中で増やし、主

体的に考え、生きていく力を育むことが必要です。

令和6年12月25日、阿部俊子文部科学大臣が次期学習指導要領の改訂を中教審に諮問しました。現場から求められていた年間の総授業時数や学習内容の削減は行わない方針が示されていますが、子どもや教員の負担軽減に向け、「コマの授業時間の短縮」や「学年で定める学習内容の弾力化」など現場の自由度を高めることで、それぞれの学校の課題に応じた創意工夫を促したいという考えが示されています。

全国連合小学校長会では、今後の方向性として、「少なく教えて 豊かに学ぶ」という理念を掲げています。「少なく」とは、「どんな力を育てるか」を明確にして、焦点化・重点化を図り、できるだけ少なく教えることで、子どもたちが体験し、考える時間を十分に確保するということを意味します。「豊かに」とはゆとりをもつて主体的に学ぶことを指しています。少なく教えることが豊かな学びにつながるということです。

これらを実現するためには、教員が

子ども一人一人の特徴や力を把握するとともに、これまで以上に教材を深く理解するために教材研究に時間をかける必要があります。

授業に主担当で関われる教員の数を増やし、教科担任制を進めることで、教員一人当たりの持ちコマ数を減らし、空いた時間で教材研究ができる環境を整えることが求められます。

年間の標準授業時数1015（4・5・6年）についても過剰に余裕を持たせた計画が立てられていないか見直す必要があります。インフルエンザなどで学級閉鎖が発生した場合の授業時数減をおそれすぎではないでしょうか。未履修は許されませんが、標準授業時数に達しなかったことのみをもつて責められることはないというのが文部科学省の公式見解です。

教育課程の編成には校長の裁量権が認められており、教職員の時間を生み出すことは管理職の重要な役割です。教職員に余裕がなければ、子どもたちにも余裕と笑顔は生まれません。

今後も校長には、多くの変化に柔軟に対応する力が求められます。校長が積極的に情報を収集し、勇気ある判断と決断を行う必要があります。しかし、迷い悩み、困難に直面することもあるでしょう。そのようなときには、「頼る力」を発揮して、他の校長とともに乗り越えていきたいと思います。

「兵庫はひとつ」、兵小長の校長同士との密な連携があれば、子どもたちの未来は無限大に広がっていくと確信しています。

（神戸市立千鳥が丘小学校長）

兵小長活動記録（抄）

庶務部長 山 田 知 之

四・一九 理事・地区長会①代表者会
五・二 理事・地区長会②

合同委員会・各委員会

近小協準備委員会①

九 近小協理事会①（奈良）

一六 兵小長総会・研修会

二四 全連小総会・研修会

三〇 あり方検討委員会①教育懇談会準備委員会①

二〇～二二 理事・地区長会③（淡路）

七・一 警務懇談会準備委員会② 近小協準備委員会②

三 理事・地区長会④代表者会

一六 私学連合会との連絡協議会

二六 近小協理事会②（奈良）

三〇 教育懇談会準備委員会③

八・二 近小協準備委員会③

二〇 近小協奈良大会

九・九 理事・地区長会⑤人給研修会

十・七 県教委との教育懇談会①

十・二 あり方検討委員会②近小協準備委員会④

二四～二五 全連小全国大会（徳島）

二八 兵小長研中播磨大会

二二 県教委との教育懇談会②

二一・二三 理事・地区長会⑥

二二・五 近小協理事会③（奈良）

一・九二〇 近小協準備委員会⑤

二・七 活動方針案検討委員会①②

二四 理事・地区長会⑦

二一 近小協理事会④（兵庫）

二二 理事・地区長会⑧

（神戸市立長田南小学校長）

活動報告

この一年をふりかえって

経営委員会の活動報告

経営委員長 藤 山 昌 生

経営委員会では、「全連小・兵小長の活動方針を踏まえ、教育諸課題の解決に向けた実践的研究を推進し、創意工夫した教育活動及び学校経営の実践交流（研修・情報交流）」を通して、活力に満ちた魅力ある学校づくりに努める」ことを目標に一年間取り組んできました。地方開催としての新たな出発点として位置づけられた全連小研究大会（徳島大会）・近小協（奈良大会）に参加するとともに、十月には兵庫県小学校長会研究大会（中播磨大会）を、昨年度の丹波大会に引き続き、参集して開催することができました。

研究大会では、各本部支部の経営委員の皆様、特に中播磨地区の校長先生方には準備や運営においてきめ細やかなご配慮とご対応をいただきました。そのおかげで、各分科会において活発な討議や情報交流が行われ、校長同士が繋がりを深め、多くの学びを得て、各支部・各学校に還元することができました。

最後になりますが、経営委員会の活動に多大なるご尽力をいただきました皆様に感謝申し上げますとともに、今夏の第七十六回近小協兵庫大会兼第七十六回兵小長研究大会（神戸大会）が意義ある研究の場となるよう、引き続き会員の皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（宝塚市立売布小学校長）

人給委員会の活動報告

人給委員長 田 口 智 章

人給委員会は、教育条件の整備及び教職員の処遇改善を柱として、働きがいのある教育現場にしていくために全連小や近小協と連携を図り、各種調査・研究活動及び人事給与等に関する研修活動に取り組んできました。

一 調査・研究活動

会員の皆様のご協力のもと、六月と十月の二回の調査を実施し、教職員の処遇や学校経営の状況を調査し、県教委との教育懇談会につなげました。また、近小協調査研究部会において、人事給与等に関する情報交流に努め「調査研究第六十三集」の編集を行いました。さらに、全連小対策担当者連絡協議会では、中教審特別部会の審議を踏まえ、働き方改革の進捗状況、教員不足の現状や教員の確保・質の向上の取組について、各地区の調査結果をもとに意見を交流し、協議を深めました。

二 研修活動

県教委のご協力を得て、八月に「教職員の給与や定年引き上げに関する現状と今後の展望」について研修会を開催しました。多くの方に参加していただき、有意義な研修活動ができました。折しも教育改革推進の時節。今後とも職責に見合う処遇改善や次代を担う管理職候補者の育成、教育を取り巻く諸課題の解決に向け、人給委員会の活動を充実していく必要があります。

（姫路市立荒川小学校長）

調査広報委員会の活動報告

調査委員長 横 山 康 文

調査広報委員会は、調査活動と広報活動に取り組みました。教員の持ち時間数、学年担任制導入に向けてや、不登校児童への支援体制の充実に向けての課題、新規採用教員の育成及び支援体制の在り方など、独自アンケートから得られたデータを教育懇談会で現場、会員の声として届けました。会報「兵小長」は、活力に満ちた魅力ある学校づくりや、創意ある小学校教育を实践する校長の学校経営の具現化に資することができたのではないかと考えます。改めて、ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

一 兵小長関係

①調査委員会独自アンケートを実施し、その結果を教育懇談会準備委員会に提出しました。また、県下全八地区にもフィードバックし、課題を共有しました。

②会報「兵小長」第一六四号・第一六五号・第一六六号を発行し、兵小長の活動状況をお伝えしました。

③兵小長ホームページを更新し、各種情報を掲載しました。

④転学児童に関する文章を発出し、正確かつ迅速な情報交換を依頼しました。

二 全連小関係

①「小学校時報」へ、寄稿を行い兵庫の活動を広報しました。

（三木市立平田小学校長）

会員の声

神戸 多田 英彦

「子ども先生もわくわくするような学校」をめざして

本校は校区に「水道筋商店街（連続ドラマ「おむすび」のロケが行われています）」を有し、創立103周年を迎えた歴史ある学校です。学校教育目標を「みんなで考える子 みんなで仲良くする子 みんなでがんばる子」として、「みんな」を意識した学校づくりを行っています。今年は「子ども先生もわくわくするような学校」を合言葉に、各クラスで行う学級会や、学校作りに参画する委員会活動を大切に行っています。先日4日間にわたって行われた、集会委員会が企画・運営する「T-1グランプリ（特技集会）」では、いろいろな学年の子とも達が、縄跳び、フープ、跳び箱、ダンス、ピアノ演奏、折り紙、お笑いなど、多岐にわたった得意技を披露し、見ている子ども達も手拍子や拍手、大きな声援で発表する友達を応援する姿が見られました。他にも各委員会が企画するイベントが頻繁に行われ、多くの子ども達が楽しく参加しています。各クラスで行う学級会でも、今の生活をよりよくするために合意形成を図ったり、意思決定したりする話合いの中で様々な意見に触れ、自分の考えを広げ、多面的・多角的に考える機会にしています。

学校運営に参画し、自分たちの力でイベントを計画したり、運営したりする経験は、子ども達が将来に所属する様々な集団や社会に対して積極的にかかわって、よりよいものにしていくこととする視点になると考えます。

今後も、「子ども先生もわくわくするような学校」をめざし、教職員・児童、一丸となつて日々進んでいきたいと思っています。

（神戸市立稗田小学校長）

会員の
声

地域とともに

阪神 藤田 洋子

三田市の北西部に位置する本校は、全校児童四十二名、三年生以上が複式学級の小規模校です。数年前には、完全複式も視野に入れなければならない状況にあります。昨年度末の併設幼稚園の閉園式では、本校や幼稚園にゆかりのある地域の方々が百名近く来られ、それだけでもいかに地域に愛されてきたかがわかる出来事でした。

本校の特色として、地域指導者とともにを行う農業体験活動があります。米作りは全学年で分担し、田植え・稲刈り・脱穀を行います。稲は、五・六年生の活動のウド小屋の屋根としても使います。米は三・四年生の黒豆栽培活動のまとめとして味噌づくりのために、また調理実習にも活用します。一つの活動が次につながる循環型の農業体験活動は、学校の力だけでは到底成り立ちません。地域の皆様の知恵を拝借し、学校用にアレンジし、持続可能な体験活動として定着させています。

本庄地域の兵庫県指定無形民俗文化財「百石おどり」の奉納が、コロナ禍を乗り越え復活しましたが、地域の高齢化と少子化のため、存続が危ぶまれています。地域の課題と本校の課題は隣り合わせです。ふるさとを愛する子の育成のため、今後も歴史と伝統をつなぎながら、地域の核としての学校づくりを目指したいと思います。

(三田市立本庄小学校長)

会員の
声地域とのつながりを大切にしたい
学校づくり

播磨東 桑原 渉

現在、明石市ではすべての学校でコミュニティ・スクールを進めているところですが、本校でも『人とつながる社会とつながる未来とつながる学校』主體的に学び、共に新たな価値を創造する子の育成を『を学校教育目標に掲げ、地域とのつながりを大切にした学校づくりを進めています。』

本校では取り組みの一つとして、一年生児童がスムーズに小学校生活をスタートできるように、毎年四月から六月まで地域の方に教室等で生活面のサポートをしていただいています。

また、クラブ活動や総合的な学習の時間に地域の方をゲストティーチャーに招いたり、五年生の防災学習で地域の方や保護者といっしょに「理想の避難所」について話し合ったりと、地域・保護者との協働を念頭に置いたカリキュラムを工夫しています。

その他、学校・保護者・地域による井戸端会議「アサトーク」を開催し、「どんな子に育ってほしいか。どんな力をつけさせたいか。」というテーマで熟議し、交流を深めました。

今後も地域社会とのつながりや信頼できる大人との多くの関わりを通して、子どもたちが心豊かにたくましく成長していけるよう、明石市の他の学校とともに地域協働による学校づくりを推進していきます。

(明石市立朝霧小学校長)

会員の
声学び合う楽しさ、
分かる喜び

西播磨 篠原 弘充

本校では「集団としての高まりをめざす算数授業の創造」学び合う楽しさ、分かる喜びを研究主題とし、児童の実態把握の考え方や手法の確立、集団または個々の実態に合わせた算数の授業づくりをめざして、日々、よりよい算数研究を模索しているところです。児童にアンケート調査をした結果、算数に苦手意識のある児童は学年が上がるほど多くなっています。その要因は「理解できなかった経験の蓄積」「訓練的な活動になりがち」といった点が挙げられます。まず、児童には算数の楽しさ、思考することの楽しさを味わわせることが大切です。そのために、学校掲示の中で算数に関係するパズルやクイズを用意したり、毎月の児童朝会の中でなどなどや算数クイズを出したりと微力ながらアプローチをしています。加えて児童には友だちと学び合うことに楽しさを感じる経験を算数学習で味わわせたいと考えています。そこで問題解決型の授業の中で、場面ごとにペア学習やグループ学習など児童のコミュニケーション場面を生み出す工夫や、互いの考えを認め伝え合うための言語活動の充実について重点的に取組を進めています。児童が、算数の時間は楽しいと感じられるよう、教職員一同で研究を推進していくと考えています。

(佐用町立上月小学校長)

会員の
声「わくわく」が
人生を楽しくする

淡路 脇田 真澄

本校は今年度、創立百五十周年を迎えました。一生のうちに、学校創立百五十周年に立ち会えることは、児童、教員、地域にとって大変貴重な出来事です。この好機を、子どもたちのキャリア教育に活かしたいと考え、社会で活躍する卒業生のお話をお聞きしようということになりました。

現在、漫画家として活躍している卒業生の来校が叶い、記念式典では、記念講話の中で、ご自身が小学生であった当時の町の様子や、「毎日わくわく、ドキドキしながら探検をしていた」ことをふりかえってお話くださいました。そして、「わくわくがあると人生が楽しくなる」「経験したわくわくをどう伝えるかが、漫画で一番大切。それは他の仕事でもいえる」と。

式典後の「漫画教室」では、児童全員が「扉のページ」を描きました。プロの漫画家による「手に取って、面白い、次を読み進めたいと思わせるもの。絵の上手下手は、関係ない。どうしたらわくわくさせられるかを考えて」などの助言を受けて、子どもたちは色鉛筆やペンを使って、それぞれの作品を描いていました。

学校教育目標である「こころ豊かに学びながら未来を創る力」の原点は「わくわく」なのだ。百五十周年のおかげで、最も大切に、シンプルな答えに出会うことができました。

(洲本市立由良小学校長)

神戸地区だより

神戸地区長 古賀 常 員

「ウエルビーイング」これこそが、令和6年度神戸市小学校長会の合言葉。まず校長自身が元気で幸せでない、子どもや保護者、地域の人、教職員のウエルビーイングを実現できるわけがありません。「幸せの黄色い冊子」(神戸市校長会の要項、表紙が黄色、横谷会長が命名)をお守りに、166名の校長が、「子どもをまんやかに」の学校運営を、誠実に推進してきました。今年度地区長を拝命し、兵小長の理事・地区長会等の議論に参加させていただく中で、神戸地区のよさや強みを、改めて感じることがありました。

その一つは、サポートルームの指導

丹波地区だより

丹波地区長 大 木 修

丹波地区小学校長会は、丹波篠山市(十五校)、丹波市(二十校)の二支部三十五校で構成されています。全学年単学級の学校が約七割で、完全複式の学校もあります。四季を通じてたくさんの味覚にあふれ自然豊かな丹波地区の魅力を生かした教育活動に各校工夫を凝らしています。

今年度の総会・研修会は四月十七日に行いました。研修会では、丹波教育事務所田村純一所長様に、「安全・安心な学校づくり」と題して講演いただきました。想定外を想定内にして危機管理意識を醸成することの大切さを確認しました。

員が、毎日4時間配置されていることです。クラスに入れない子どもたちの選択肢が増えた上、一定の指導員に対応してもらえる安心感が、子どもたちにも保護者にもあります。本校でも、10名以上の子どもたちが利用し、その何人かはクラスに戻ることができました。

あと、学年担任制(チーム担任制)の積極的な推進です。来年度は、40校以上がチャレンジすると聞いています。学年担任制の特長や自校の状況を熟慮した上で、柔軟な決定ができる自立した校長の存在を心強く感じます。

今後も、「ともに」を大切に、着実に歩みを進める神戸市小学校長会でありたいと思っています。

(神戸市立霞ヶ丘小学校長)

地 区 の 動 き

また、八月六日の夏季研修会では、和歌山大学教授米澤好史先生にオンラインで「愛着障害と発達障害の理解と愛着に問題を抱える子どもへの支援」について講義を受けました。アセスメントをしつかり行い、それぞれの特性に応じた愛着の視点からの支援について学ぶことができました。そして、後の懇親会では、有意義な情報交換を行うことができました。

今後も「丹波は一つ」を合言葉に、先行きが見通せない時代において、校長自らが主体的に学び、「自ら未来を拓き、ともに生きる喜びと豊かな社会を創る子どもの育成」のため、日々の教育活動を推進して参ります。

(丹波市立上久下小学校長)

中播磨地区だより

中播磨地区長 岡 崎 由 佳

中播磨地区小学校長会は、姫路市(義務教育学校前期課程3校を含む)69校、神崎郡(神河町、市川町、福崎町)11校、合計80校で構成しています。

今年度は、10月22日に兵小長研究会中播磨大会を姫路市民会館で開催し、8分科会にて熱心な研究協議を行うことができました。また、令和7年度兵小長総会が5月15日にアクリエひめじにて予定されています。総会・研修会が盛会に開催できますよう地区二丸となつて準備を進めてまいります。

さて、姫路市では令和5年度より教員のウエルビーイングをめざし、課題委員会を立ち上げています。その中では、

教員の働き方改革を具体的に進めてきました。姫路市の大きな一歩としては、長年の懸案事項であった林間学校の在り方や勤務時間外の陸上や金管バンドなどの練習・引率の負担をなくしていく動きが出てきたことが挙げられます。神崎郡においてもバージョンアップされた校務支援ソフトを有効活用し、業務改善をさらに進めています。来年度は、既存の地区研修会や総会は書面で決議し、負担軽減を図ります。今後も「中播磨は一つ」を合言葉に、中播磨地区校長会としてできることを考え実践していきたいと思っています。全ては、子どもたちのウエルビーイングにつながるのだという思いを共有し、中播磨地区校長会として活動していきたいと思っています。

(姫路市立網干西小学校長)

編集後記

広報部長 崎 川 孝 一

この一年間、編集作業を担当させていただいた中で、複数の方から労を労うお言葉をいただきました。確かに思った以上に慌ただしい時期もありましたが、それとは別に、校正等の作業をさせていただく関係で今まで以上に

だく中で、素敵な取り組みをされていることを知り、制約のある中や限られた資源の中でも工夫次第で子ども達の成長を促す取り組みができることも教えていただきました。

私が一番心に染みているのは、人材育成であり、職員組織づくりに関する文章です。「過去を振り返るだけの問いでなく、(中略) 未来志向の問いが大切」と書かれた文章にふれたことで、若い先生方に向き合う姿勢を見直し、改めて一緒に働く仲間として今の姿を受けとめつつ、十年先の姿を本人に問いながら引き出して共有し、見守るよう心がけています。たくさん学びをいただき、本当に感謝しかありません。

また、他地区の報告を読ませていた

(神戸市立甲緑小学校長)